

馬産地ライター村本浩平の 2024 スタリオンシリーズ競走種牡馬名鑑



Vol. 2 | 6.11 [火] ▶ 8.1 [木] 開催分

6.13
[木]

ルヴァンスレーヴ賞
【北海優駿(H1)】

初年度
産駒
デビュー

ルヴァンスレーヴは2015年産まれ、白老町・(有)社台コーポレーション白老ファームの生産馬。父シンボリクリスエス、母マエストラーレ(母の父ネオユニヴァース)。現役時はGIチャンピオンズC、など10戦7勝の成績を残している。デビューから3連勝でJpnI全日本2歳優駿を優勝。3歳時はGIIIユニコーンSから連勝を重ねていき、チャンピオンズCでは3歳馬としては史上4頭目の同レース制覇を果たしている。2021年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養。その年には223頭の繁殖牝馬を集めて、国内最多の種付け頭数を記録した。2023年には185頭の繁殖牝馬に配合を行っている。

6.18
[火]

シャープアステカ賞
【フロイラインカップ(H3)】

新種牡馬

シャープアステカは2013年産まれの米国产馬。父Freud、母So Sharp(母の父Saint Liam)。現役時はGIシガーマイルHなど17戦8勝の成績を残している。そのうち重賞では5勝をあげており、GIBCダートマイルなどGIで4度の連対を果たしている。現役引退後の2019年から米国で種牡馬入り。2022年デビューの初年度産駒は2歳戦だけで34頭が勝ち上がり、2歳総合サイアランキング勝馬数の1位となった。今年に入ってからスイートアステカが、GIビホルダーマイルSを優勝と父譲りの成長力も証明する形となった。2024年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養されている。

6.19
[水]

モズアスコット賞
【栄冠賞(H2)】

初年度
産駒
デビュー

モズアスコットは2014年産まれの米国产馬。父Frankel、母India(母の父ヘネシー)。現役時はGI安田記念、GIフェブラリーSなど26戦7勝の成績を残している。3歳時にデビュー後は芝を使われながら、連対圏を外さないレース内容でオープン入り。重賞でも好走を続けると、安土城Sからの連闘策となった安田記念をレースレコードタイで制する。6歳時にはダートに戦いの場を向けていくと、GIII根岸Sを優勝し、続くフェブラリーSでも勝利をあげる。2021年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養。その年には167頭に配合を行っており、2022年に誕生した初年度産駒は今年、デビューを迎える。

6.20
[木]

テオーケインズ賞
【赤レンガ記念(H3)】

新種牡馬

テオーケインズは2017年産まれ、日高町・ヤナガワ牧場の生産馬。父シニスターミニスター、母マキシムカフェ(母の父マンハッタンカフェ)。現役時はGIチャンピオンズCなど25戦10勝の成績を残している。3歳の秋にオープン入りし、4歳時にはGIIIアンタレスSでの重賞初制覇に続き、JpnI帝王賞も勝利。秋にはチャンピオンCも優勝して、2021年のJRA賞最優秀ダートホースに選出される。5歳時にもGIII平安SとJpnIJBCクラシックを優勝している。2024年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養。同スタリオンで繋養される、父シニスターミニスターの後継種牡馬としても注目を集めている。

7.11
[木]

ノーブルミッション賞
【星雲賞(H3)】

初年度
産駒
デビュー

ノーブルミッションは2009年産まれの英国産馬。父Galileo、母Kind(母の父デインヒル)。現役時はGI英チャンピオンSなど21戦9勝の成績を残している。全兄は世界的な名馬かつ、各種牡馬のFrankel。その兄が芝のマイルを中心に完璧な成績を残した一方で、ノーブルミッションは芝の中長距離で活躍を続けた。5歳時には7戦5勝、2着2回と安定したレース内容で、英チャンピオンS、タタソールズゴールドC、サンクルー大賞とGIを3勝。2014年のカルティエ賞最優秀古馬に選出されている。2015年から米国で種牡馬となり、2021年シーズンから新ひだか町・日本軽種馬協会静内種馬場で繋養されている。

7.17
[水]

シャンハイボビー賞
【ポラリスサマースプリント(H3)】

シャンハイボビーは2010年産まれの米国产馬。父Harlan's Holiday、母Steelin'(母の父Orientate)。現役時はGIBCジュヴェナイル、GI米シャンペインSなど8戦6勝の成績を残している。現役引退後の2014年からアメリカで種牡馬入り。その年にはシャトルサイアールとしてブラジルにも渡る。世界各国でグレードレースの勝ち馬を送り出す中、2019年シーズンから新ひだか町・アロースタッドで繋養を開始。日本での初年度産駒となるマンダリンヒーローが2022年のハイセイコー記念を優勝すると、2023年のGIサンタアニタダービーで2着に入着。その年のGIケンタッキーダービーにも出走を果たした。

7.18
[木]

ダノンスマッシュ賞
【ノースクイーンカップ(H2)】

ダノンスマッシュは2015年産まれ、新ひだか町・ケイアイファームの生産馬。父ロードカナロア、母スピニングワイルドキャット(母の父Hard Spun)。現役時はGI香港スプリント、GI高松宮記念など26戦11勝の成績を残している。芝のスプリント戦線で父を彷彿とさせる活躍を見せていくと、5歳時の香港スプリントでは、史上初となる父仔制覇を果たす。6歳時には高松宮記念も優勝し、国内初のGI制覇だけでなく、史上2頭目の父仔制覇ともなった。2022年シーズンから日高町・ブリーダーズ・スタリオン・ステーションで繋養。その年には146頭、2023年シーズンにも128頭の繁殖牝馬を集めている。

7.25
[木]

ホットロッドチャーリー賞
【リリーカップ(H3)】

ホットロッドチャーリーは2018年産まれの米国产馬。父Oxbow、母Indian Miss(母の父Indian Charlie)。現役時はGIペンシルヴァニアダービーを優勝など19戦5勝の成績を残している。GI勝利は1勝ながらも、3歳時のGIケンタッキーダービーとGIベルモントSでは2着。4歳を迎えたGIDバイワールドCでも2着と、GIでも好走を続けた。2023年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養。その年には133頭の繁殖牝馬に配合を行った。半兄のMitoleはBCスプリントを含めてGIで4勝。米国で種牡馬入り後は初年度産駒の活躍もあって、2023年の北米ファーストシーズンサイアールに輝いている。

7.31
[水]

ゴールドドリーム賞
【旭岳賞(H3)】

初年度
産駒
デビュー

ゴールドドリームは2013年産まれ、安平町・ノーザンファームの生産馬。父ゴールドアリュール、母モンヴェール(母の父フレンチデピュティ)。現役時はGIフェブラリーS、GIチャンピオンズCなど27戦9勝の成績を残している。4歳初戦となるフェブラリーSでGI初制覇。その年にはチャンピオンCも制する活躍で、2017年のJRA最優秀ダートホースに選出される。5歳以降も2018年と2019年のJpnIかしわ記念と、2018年のJpnI帝王賞を優勝している。2021年シーズンから新ひだか町・レックススタッドで繋養。その年には212頭の繁殖牝馬に配合する人気種牡馬となった。初年度産駒は今年デビューを迎える。

8.1
[木]

サトノクラウン賞
【王冠賞(H2)】

サトノクラウンは2012年産まれ、安平町・ノーザンファームの生産馬。父Marju、母ジョコンダII(母の父Rossini)。現役時はGI香港ヴァース、GI宝塚記念など20戦7勝の成績を残している。2歳時にはGIII東京スポーツ杯2歳Sを優勝。3歳初戦となるGII弥生賞も制して、その年のGI皐月賞では1番人気の支持を集める。古馬となってからも重賞で好走を続けていく中で、4歳暮れに行われた香港ヴァースで待望のGI初制覇をあげると、5歳時には宝塚記念も優勝した。2019年シーズンから安平町・社台スタリオンステーションで繋養。初年度産駒となるタスティエーラが、2023年の日本ダービーを制している。

今シーズンは特別競走2レースも「スタリオンシリーズ競走」として開催!

- 門別15回 ・ミスチヴィアスアレックス賞
- 門別15回 ・アニマルキングダム賞

「スタリオンシリーズ競走」は、一般社団法人JBC協会(ジャパンプリーダーズカップ協会)が産地の支援を得て、優勝馬の馬主や生産牧場に種牡馬の翌年種付権利を副賞として贈呈する競走です。

※生産牧場が海外の場合は付与対象外となります。

